

【宮城薬剤師学術フォーラム2018 大会長賞受賞！】

11月11日(日)に宮城県薬剤師会主催、宮城県病院薬剤師会後援で、宮城薬剤師学術フォーラム2018が開催され、口頭、ポスター発表合わせて16演題の発表がありました。このフォーラムにて当社社員が大会長賞を受賞いたしました。

発表者：倉島 信彦（ひかり薬局大学病院前調剤センター）

演題名：「東北大学病院内服抗がん薬を用いるがん化学療法プロトコル開示
における薬局の取り組み」



(10) 東北大学病院内服抗がん薬を用いるがん化学療法 プロトコール開示における薬局の取り組み

ひかり薬局大学病院前調剤センター

○倉島信彦，石川由紀子，瀬野尾千恵子，尾形晶子，櫻井裕子，小泉浩司，
藤田尚宏，松浦綾子

【目的】

H. 29. 7月より東北大学病院の院外処方箋に内服抗がん薬を用いるがん化学療法のプロトコール番号等を印字し、病院ホームページ内にて掲載する取り組みが始まり、保険薬局でもそのプロトコールの情報を確認出来るようになった。当薬局ではプロトコール番号印字処方箋を受け付けるにあたり、より適切な服薬指導や副作用管理のために服薬指導チェックシートを作成して患者対応にあたっている。今回、服薬指導チェックシートを用いて、副作用の回避を行うことができた事例を報告する。

【方法】

服薬指導チェックシートを作成するにあたり、内服抗がん薬のうち、当薬局での処方箋受付が最も多い医薬品であるテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウムを選定した。シートには、初回介入時、開始後7～10日、2～3週、4週以降と服用時期毎に起こりやすい副作用を具体的症状とともに頻度順に表記した。処方受付後、処方箋に印字されたプロトコール番号から該当するプロトコール情報を確認し、服用サイクル、癌種を確認の上、処方薬鑑査を行った。次に服薬指導時チェックシートを確認しながら副作用確認と服用時の注意点について患者指導を行った。

【結果】

プロトコール開示により、内服抗がん薬を含む処方箋持参患者の癌種と服用サイクルがほぼ特定され、初回からの服薬指導をスムーズに行うことが出来る様になった。合わせて当薬局作成の服薬指導チェックシートを用いて副作用管理も可能となった。今回テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウムを4週以上服用している患者からの目の違和感の訴えに対し、服薬指導チェックシートを用いて流涙の疑いを持った当薬局薬剤師が、ソフトサンティアの点眼を提案し、使用したところ症状軽減に至った。処方元医師には、当薬局より服薬情報提供を行い、ソフトサンティア継続指示があったことを、患者を介し確認している。

【考察】

内服抗がん薬を含むプロトコール開示をきっかけに保険薬局で患者より聞き取るべき内容が省略され、患者個々の服薬指導を行えるようになった。病院による今回のプロトコール開示は保険薬局において有用だといえる。今後は他の内服抗がん薬についても服薬指導チェックシートを作成し、患者の支援体制を整えていきたい。